

# ICT を活用して より良い学びを

令和3年(2021)2月、市立小・中学校に通う全ての児童生徒に、1人1台ずつのタブレット端末の配備が完了しました。変わりゆく教育現場での、ICT (Information and Communication Technology・情報通信技術) を活用した取り組みを紹介します。

## 子ども一人ひとりの 個性やニーズに応じた学び

デジタル教材を活用することで、教職員が子どもたちのタブレットに宿題を配信することができます。また、学習ドリルソフトから、子どもたち自身が問題を選び、自分のペースで学習を進めたり、つまづいた部分を繰り返し学習したりすることができます。

## 探究学習・表現活動

発表資料を作成し、子ども同士で助言し合うことで、お互いに思考力や表現力を高めることができます。また、大型モニターを活用し、クラス全体でさまざまな課題や考え、意見を共有します。



資料作成に必要な写真はタブレットを持って出て撮影します



子どもたちが入力した内容がすぐに大型モニターに表示されます

## 子ども同士が教え合い学び合う 協働的な学び

インターネットを使って情報を収集し、グループで役割分担しながら学習計画を立てることも。自分のタブレットを活用して、興味・関心に合わせた“調べ学習”を



行うことができるほか、メンバーとの意見交換を通じて学びを深めることができます。

克明小学校では京都府への日帰り旅行の計画を子どもたちが立てました

## オンライン会議システムを 活用した交流学習

オンライン会議システムを活用して、離れた場所にいる人とリアルタイムでつながったり、さまざまな体験をしたりすることが、コミュニケーション能力の育成につながります。



豊島西小学校ではアメリカにいる大学生と交流しました

## ICT活用に関する教職員研修

授業のサポートから端末トラブルの初期対応まで幅広い業務を担うGIGAスクールサポーターを招いて、タブレットを活用する研修を各学校で実施。教職員のICT活用指導力の向上を図っています。

今後も子どもたちの学びに対する意欲や興味・関心を高める授業づくりに努めます。



子どもたちに1人1台のタブレット端末が配られたことで、日常の学習やさまざまな活動でも活用できるようになりました。これからの学習は、「教えてもらう」ものから、子どもたち自身で「学びとる」ものへと変わっていきます。まだまだ手探りの部分もありますが、子どもたちの成長につながる学びのツールとして、積極的に活用していきたいです。

少路小学校校長・沖野勝則